

都市再生整備計画

かわぐちえきしゅうへんちく
川口駅周辺地区

さいたまけんかわぐちし
埼玉県 川口市
(第1回変更)

令和5年10月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	<input type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input checked="" type="checkbox"/>

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	埼玉県	市町村名	かわぐち市 川口市	地区名	かわぐちまきしゅうへんちく 川口駅周辺地区	面積	61	ha							
計画期間	令和	5	年度	～	令和	9	年度	交付期間	令和	5	年度	～	令和	9	年度

<p>目標</p> <p>大目標：住民等の快適性の向上や賑わいの創出に向けて、コンパクトでゆとりのあるウォーカブルなまちの実現を図る。 目標1：川口駅東西連絡通路を核として、東西口間の回遊性の向上や駅舎から拠点施設への移動の円滑化を図るとともに、川口駅東西連絡通路、川口西公園及び多目的文化芸術拠点の一体的利用に向けた回遊性・滞在快適性の向上を図る。 目標2：東口の既存商店街サン・ショッピングパーク(以下サン・ショッピングパーク)の賑わいの創出を図る。 目標3：川口駅と川口元郷駅間における移動の円滑化と、賑わいの創出を図る。</p>
<p>目標設定の根拠</p> <p>まちづくりの経緯及び現況 当地区は、江戸時代前期に日光御成道の宿場町として栄え、明治末期に川口町駅(現在の川口駅)ができると、地場産業である鋳物産業を中心として、高度経済成長期をピークに発展を遂げた。オイルショック以降、鋳物工場の移転・廃業が相次ぎ、空地が発生したことにより、東京一極集中による人口増加の受け皿として、住宅を中心とした都市化が急速に進んだ。 こうした状況の中、官民連携での取組を進め、東口において、再開発等により、商業施設や業務施設の整備を進めるとともに、西口において、大規模な公園や文化施設の整備を進めてきた。また、東口と西口を結ぶ東西連絡通路や、自動車の通過交通の排除に向けた環状道路の整備など、基盤整備を進め、現在の本市の表玄関である中心市街地の礎を築いた。 こうした取組に加えて、子育て・保育環境の充実や、都心へのアクセスの良さ等から、近年、都心への通勤者を中心に人口増加が続いており、「住みやすいまち」として高い評価を受けている。 しかしながら、居住者に通勤者が多く昼間人口が少ないことや、駅から拠点施設への回遊性が低いこと等から、近年、大型商業施設が撤退するなど、賑わいの低下が課題となっている。 他方、新型コロナ危機を契機として、住宅の近くで、働いたり、余暇を楽しんだりする方が増えており、これを踏まえた都市機能の導入が求められている。 なお、当地区は、都市再生特別措置法に基づく都市再生緊急整備地域内にあり、その地域整備方針において、駅へのアクセス機能の強化等に向けて、歩行者デッキの更なる整備等を進めることを掲げている。</p>
<p>課題</p> <p>【課題①】賑わい創出に向けたまちなか居住推進と昼間人口増加の必要性 ・居住者に通勤者が多いこと等から昼間人口が少なく、大型商業施設の撤退など、賑わいが低下している。 【課題②】川口西公園における多様な活動を誘発する仕掛けの不足 ・屋内空間がなく、滞在快適性が低い。 ・隣接地の川口総合文化センターとの一体的利用が図られていない。 ・川口総合文化センターは老朽化が進み魅力が低下している。 【課題③】駅東西口の回遊性と駅舎空間の滞在快適性等の向上の必要性 ・東西連絡通路は、無機質で開放感のないこと、屋内空間がないこと等から回遊性・滞在快適性が不足している。 ・乗り入れ路線が1つのみであり、鉄道輸送力が不足している。 【課題④】既存商店街における移動円滑化や滞在快適性向上の必要性 ・サン・ショッピングパークは道路の老朽化が進み、また、道路が無秩序に利用されており、歩行者の円滑な移動や快適な滞在に支障をきたしている。 【課題⑤】川口駅・川口元郷駅間の賑わい創出・移動円滑化の必要性 ・周辺の大形店舗出店に伴い、車での移動が増え、著しく賑わいが低下している。 ・災害時等の川口駅の電車遅延時に多くの歩行者が移動するが、そのための歩道幅員が不足している。</p>
<p>将来ビジョン(中長期) 川口駅周辺まちづくりビジョン(令和3年度策定) 緊急度と効果が高いプロジェクトを5つ設定し、実現に向けた取り組みを進めていく。 【交通拠点リニューアルプロジェクト】 駅機能の強化等、これからの働き方、暮らし方を先導し、市内各拠点に波及させるまちづくりを行う。 【公園等リノベーションプロジェクト】 賑わいの創出等に向けて、川口西公園等において試験的な取り組みを行う。 【六間通り線機能・魅力向上プロジェクト】 川口駅から川口元郷駅間をつなぐ六間通り線の乗り継ぎ環境を改善するとともに、快適で魅力的な沿道空間を創出する。 【多目的文化芸術拠点整備プロジェクト】 文化・芸術・コンベンション機能等を含む多目的文化芸術施設を整備する。 【まちなか再生プロジェクト】 再開発等の推進によりウォーカブルなまちづくりを進め、まちなかの機能と賑わいの再生を図る。</p>

一体型滞在快適性等向上事業及びまちなかウォークアブル推進事業の計画

滞在快適性等向上区域の考え方

特に滞在快適性等の向上を図る必要のある区域として、以下の3つの区域を設定する。

区域①川口駅東西口エリア：東西連絡通路を中心として東西口の回遊性向上等や川口西公園・多目的文化芸術拠点との一体的利用を図るべき区域

区域②サン・ショッピングパークエリア：既存商店街を中心として賑わいの創出を図るべき区域

区域③六間通り線エリア：川口駅と川口元郷駅間をつなぐ六間通り線を中心として移動の円滑化や賑わいの創出を図るべき区域

滞在快適性等向上区域での取組

区域① 東西連絡通路の拡幅・アトリウム化・駅舎との連結を行う。また、川口西公園において、オープンカフェの設置等に向けた社会実験を実施する。

区域② サン・ショッピングパークにおいて、賑わいの創出に向けた社会実験を実施する。

区域③ 六間通り線の歩道を拡幅し移動を円滑化するとともに、沿道への店舗誘導を図ることにより、商店と歩道等との一体的利用を推進する。

目標を定量化する指標

指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
①川口駅東西連絡通路における歩行者通行量	人/日	・平日で終日晴れの日における、東西連絡通路の歩行者通行量(令和元年度調査による) ・2か所ある通路のうち、駅舎内通路を除却し、東西連絡通路に集約する計画であるため、従前値は2通路の合計歩行者量(既存通路の歩行者量)としている	東西連絡通路を中心とした東西口の回遊性向上等や川口西公園・多目的文化芸術拠点との一体的利用の推進により、歩行者通行量が増加する。	214,074(3,914)	R4年度	321,000	R9年度
②サン・ショッピングパークにおける歩行者通行量	人/日	令和3年度/平日における対象区域内の20歳以上の1日当たりの平均歩行者通行量	サン・ショッピングパークの賑わいの創出により、歩行者通行量が増加する。	7,425	R4年度	11,000	R9年度
③六間通り線における歩行者通行量	人/日	令和3年度/平日における対象区域内の20歳以上の1日当たりの平均歩行者通行量	川口駅と川口元郷駅間における移動の円滑化と、賑わいの創出により、歩行者通行量が増加する。	15,970	R4年度	23,000	R9年度

②・③の従前値の計測について

(データ提供：KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」)

※auスマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に個人を特定できない処理を行って集計しております。インバウンド・10代以下のデータは含まれません。)

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【整備方針①】優良な住宅供給やテレワークをする場の整備の推進 駅東口の再開発等により優良な住宅供給やテレワークをする場の整備を推進し、まちの滞在人口の増加につなげ、賑わいの創出を図る。</p>	<p>【関連事業】川口本町4丁目9番地区第一種市街地再開発事業(社会資本整備総合交付金(再開発)) 【関連事業】川口本町4丁目9番地区((都)善光寺荒川線)(社会資本整備総合交付金(道路)) 【関連事業】川口元郷1丁目2番地区優良建築物等整備事業(社会資本整備総合交付金(住環境))</p>
<p>【整備方針②】川口西公園におけるオープンカフェの設置、多目的文化芸術拠点の整備 川口西公園においてオープンカフェの設置や川口総合文化センターの大規模改修と併せた多目的文化芸術拠点の整備を行い、滞在快適性等の向上を図る。また、駅から両施設までの歩行者デッキに屋根を架け、移動の円滑化を図る。</p>	<p>【基幹事業】(滞在環境整備事業)川口西公園賑わい創出社会実験 【基幹事業】(滞在環境整備事業)西口デッキ屋根設置 【関連事業】多目的文化芸術拠点整備</p>
<p>【整備方針③】東西連絡通路の拡幅・アトリウム化、ホーム増設等に資する交通拠点リニューアル 東西連絡通路について、拡幅・アトリウム化・駅舎との連結を行い、東西口の回遊性向上、駅舎からの移動円滑化、待ち合わせ等に資する滞在快適性の向上を図る。また、中距離電車のホームを増設し、鉄道輸送力増強を図る。</p>	<p>【基幹事業】(地域生活基盤施設)東西連絡通路の拡幅・アトリウム化(表玄関創出プロジェクト) 【基幹事業】(高質空間形成施設)川口駅東西口デッキへの移動経路の円滑化(エレベーター・エスカレーターの整備) 【関連事業】中距離電車停車用ホーム増設</p>
<p>【整備方針④】サン・ショッピングパークの道路高質化、商店と歩道等との一体的利用に係るルール整備 サン・ショッピングパークについて、段差の解消、車道・歩道の分離、歩道へのベンチの設置など、道路の高質化を図る。また、歩道や公開空地の利用に係るルールを整備し、賑わい創出と移動の円滑化等の両立を図る。</p>	<p>【基幹事業】(滞在環境整備事業)サン・ショッピングパーク賑わい創出社会実験</p>
<p>【整備方針⑤】六間通り線における歩道拡幅による移動円滑化、商店と歩道等との一体的利用の推進 六間通り線において歩道拡幅に併せて、歩道の活用方法(商店との一体活用・通行空間・植栽帯等)と、沿道への店舗誘導方策を検討することで移動の円滑化を図るとともに、商店と歩道等との一体的利用を推進する。</p>	<p>【基幹事業】(道路・滞在環境整備事業)六間通り線機能・魅力向上プロジェクト(仮称) 【関連事業】川口元郷1丁目2番地区優良建築物等整備事業(社会資本整備総合交付金(住環境))</p>
<p>その他</p>	

川口駅周辺地区(埼玉県川口市) 整備方針概要図(まちなかウォーカブル推進事業)

目標	大目標: 住民等の快適性の向上や賑わいの創出に向けて、コンパクトでゆとりのあるウォーカブルなまちの実現を図る。 目標1: 川口駅東西連絡通路を核として、東西口間の回遊性の向上や駅舎から拠点施設への移動の円滑化を図るとともに、川口駅東西連絡通路、川口西公園及び多目的文化芸術拠点の一体的利用に向けた回遊性・滞在快適性の向上を図る。 目標2: 東口の既存商店街サン・ショッピングパークの賑わいの創出を図る。 目標3: 川口駅と川口元郷駅間における移動の円滑化と、賑わいの創出を図る。	代表的な指標	川口駅東西連絡通路における歩行者通行量 (人/日)	214,074 (R4年度)	→	321,000 (R9年度)
		サン・ショッピングパークにおける歩行者通行量 (人/日)	7,425 (R4年度)	→	11,000 (R9年度)	
		六間通り線における歩行者通行量 (人/日)	15,970 (R4年度)	→	23,000 (R9年度)	

